

日交研シリーズ A-687

平成 28 年度自主研究プロジェクト

地域間交通網と都市・地域集積に関する研究

刊行：2017 年 5 月

日本の都市の人口規模と産業構造の変遷（1980-2010 年）：

恒常的な攪乱と頑健な秩序の存在

Evolution of Sizes and Industrial Structure of Cities in Japan
between 1980 and 2010: Constant Churning and Persistent Regularities

主 査：森 知也(京都大学経済研究所教授)

Tomoya MORI

要 旨

本稿は、1980～2010 年の日本経済の変遷を、都市の人口規模と産業構造の視点から実証的に分析するものである。日本における都市化は 1970 年代までに一段落し、以降は、近隣都市群の合併吸収によって都市が巨大化する次の段階に移行した。1980・2010 年の両時点において存在する都市の人口は、平均成長率が 24%と、総人口成長率 9%に対して大きく増加している。一方で、製造業小分類に関して、個々の都市の産業構造に注目すると、個々の都市における立地産業は 30 年間で平均 30%以上も入れ替わっていることが分かる。このように、都市群は、人口・産業分布について顕著な攪乱を経験してきた。一方で、都市の規模と産業構造の関係に着目すれば、個々の産業の立地都市数と、その産業の立地都市の平均人口規模は、30 年間通してほぼ一定の対数線形関係を保ってきた。本稿では、上記の事実を示すとともに、この秩序の政策的インプリケーション及び背後にあるメカニズムについて議論する。

キーワード：経済集積、交通網、中心地理論、べき乗則

Keywords : Economic Agglomeration, Transport Network, Central Place Theory, Power Laws